

平成29年度 第1回 新潟市防災会議 津波対策専門会議		会議概要
日時	平成30年2月6日(火) 10:00 ~ 12:00	
会場	新潟市役所 本館3階 本部会議室	
出席委員	田村委員(座長), 安田委員, 山賀委員, 長谷川委員, 川崎委員, 大谷委員, 塩沢委員, 川村委員, 鈴木委員, 土田委員, 大橋委員	
主な 会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 委員の紹介</p> <p>3 議題</p> <p>(1) これまでの津波対策専門会議の取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6名が新規委員でしたので, 事務局より平成26年度からの取組みについて説明がありました。 <p>(2) 新潟県が公表した新たな津波浸水想定概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回想定との比較説明(主に断層帯について)がありました。 ○想定断層 25年想定 県想定6断層+参考2断層 29年想定 国想定7断層+25年県想定2断層 ○津波水位(代表地点) <ul style="list-style-type: none"> 25年 寄居浜 7.3m 29年 " 11.0m ○浸水面積 25年 10,971ha(20cm以上表記) 29年 10,736ha(1cm以上表記) ※県全体の2/3が新潟市 ○堤防 25年 堤防なし(全て決壊) 29年 地震直後に75%沈下→津波越流時点で全て破壊 ※国の想定資料による(せり上がり)浸水深を考慮 <p>(3) 今後のスケジュール等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○8月~9月初め迄に市HPに掲載, 区だより等でも周知を図る。 <p>(4) 新たな市津波ハザードマップ(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市で水の深さを表す緑や黄色等のマップについて, 国交省の標準形式を取り入れたマップにしたかどうか検討(全体が濃ピンク~薄い黄色の7色) ○3月にもう一度, 検討することになりました。 <p>4 閉会</p>	

新潟県の新たな津波浸水想定公表について

市民厚生常任委員会資料
平成29年12月15日
危機管理防災局防災課

- 1 概要 津波防災地域づくり法に基づく新たな津波浸水想定に係る図面を、11月15日新潟県が公表し、市町村向けに説明会を開催
- 2 経緯 平成25年12月 県 独自の最大クラスの津波浸水想定を公表
平成26年 4月 市 上記に基づきハザードマップ作成・HP 掲載
平成26年 8月 国 日本海側最大クラスの津波断層モデルを公表
平成29年11月 県 上記を踏まえて、今回新たに津波浸水想定を公表

3 想定断層



4 前回想定との比較

	平成29年想定	平成25年想定
(1)想定断層	国想定7断層+H25県想定2断層	県想定6断層+参考2断層
(2)最も影響の大きい津波断層モデル	F38(越佐海峽)	長岡平野西縁断層帯
(3)津波水位(代表地点)	11.0m 寄居浜	7.3m 寄居浜
(4)浸水面積	10,736ha (1cm以上を表記) ※県全体の2/3が新潟市	10,971ha (20cm以上を表記)
(5)堤防	地震直後に75%沈下 →津波越流時点で全て破壊	堤防なし(全て破壊)

5 地域ごとの特徴

- 信濃川エリア
 - ・F38(越佐海峽)断層による津波が、直交方向で襲来し直接的な影響を受ける。
 - ・新潟西港周辺は、水位の上昇や到達時間が早くなるなど、危険度が増す。
 - ・信濃川やすらぎ堤は、堤防耐震化済みにより沈下しない想定。
 - ・堤防がない萬代橋下流から浸水し、鳥屋野潟周辺まで広がる。
- 阿賀野川エリア
 - ・阿賀野川下流は、堤防耐震化済みにより沈下しない想定。
 - ・津波の直接的な影響は少ないが、新潟空港の海岸線や新井郷川からの流出により浸水する。
- 福島潟エリア、新川エリア
 - ・地震により75%の堤防が沈下することで、地盤高の影響から、津波が遡上する前に、河川の水が流出することにより瞬時に氾濫し、その後もゼロメートル地帯に長時間浸水が続く。

6 本市の対応

対策業務	事業費	時期
○津波ハザードマップデータ作成 (掲載内容・方法、避難対策の検討など)	16,500千円 (国補助1/2あり)	平成30年夏頃を目途に完成予定

新潟市津波対策専門会議を開催し、専門家や地域代表からの意見を踏まえ速やかに作成する。

平成 29 年 11 月 15 日 新潟県公表

新潟市

- ・ 浸水面積 : 10,736ha
- ・ 沿岸最高津波水位 :
 - 代表地点の最高津波水位 : 11.0m

■ 寄居浜

津波水位 : 11.0m

■ 信濃川河口

津波水位 : 4.6m

■ 関屋分水路

津波水位 : 7.3m

■ 新川河口

津波水位 : 6.7m

◇ 全海岸線 (海岸線から沖合 30m 地点) での最高津波水位 : 11.8m

■ 代表地点

沿岸の津波水位を算出する主要地点

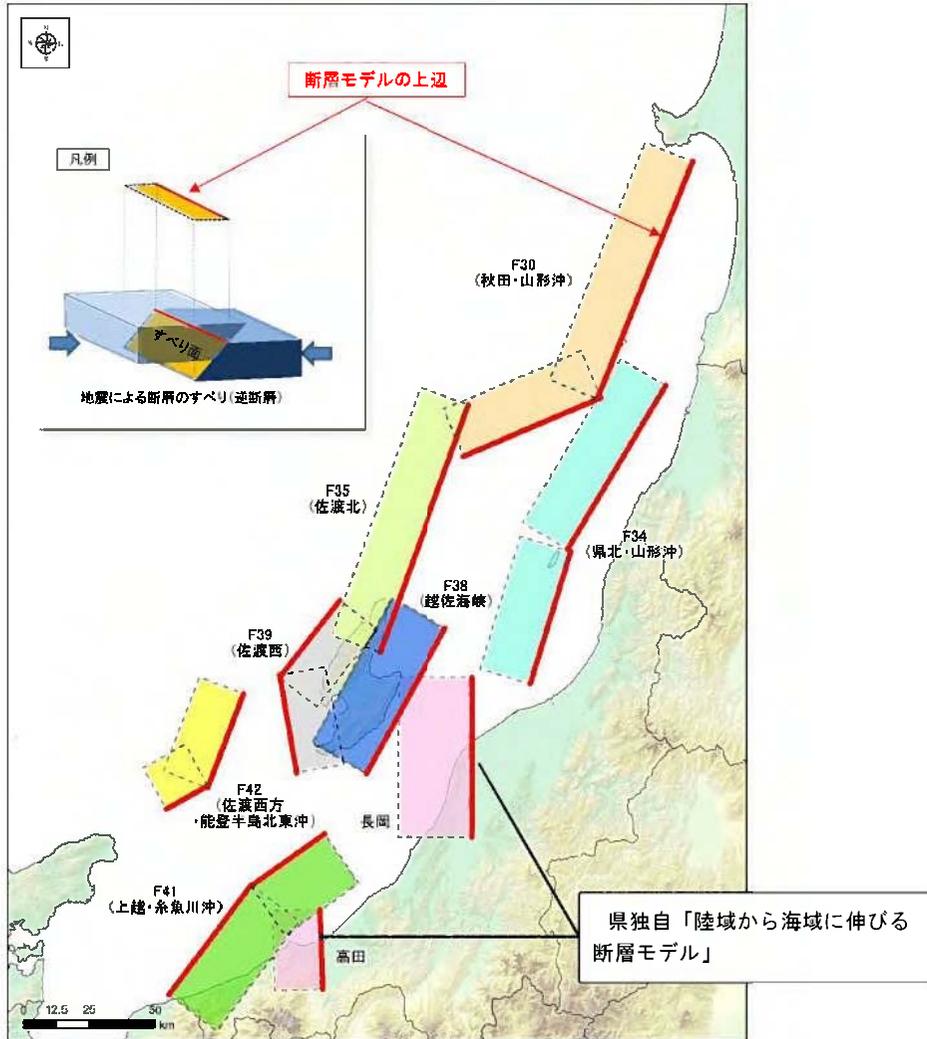
凡例

最大浸水深 (m)

- 10.0m以上20.0m未満
- 5.0m以上10.0m未満
- 3.0m以上5.0m未満
- 1.0m以上3.0m未満
- 0.5m以上1.0m未満
- 0.3m以上0.5m未満
- 0.01m以上0.3m未満

津波断層モデル位置図

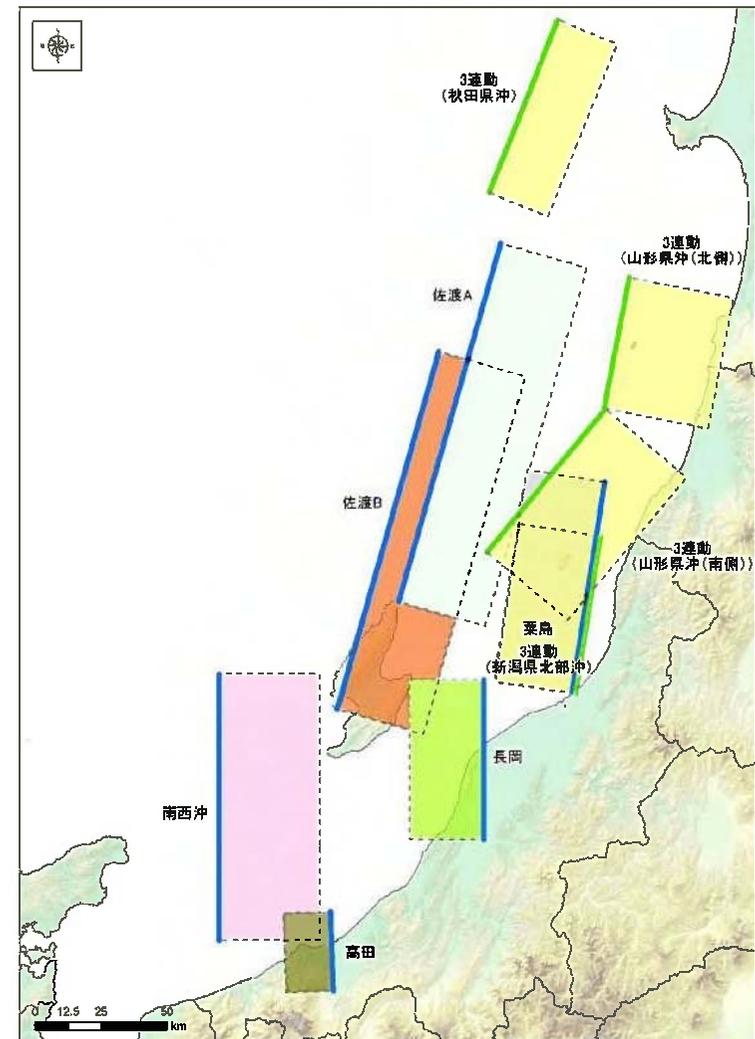
H29 公表（今回）津波断層モデル位置図



平成29年想定 津波浸水の状況(全県)

想定断層	国想定7断層+H25県想定2断層
浸水市町村	13市町村
最高津波水位 (代表地点)	11.0m(新潟市寄居浜)
浸水面積	16,334ha(1cm以上を表記)
影響開始時間	最短で5分以内

H25 公表 津波断層モデル位置図



平成25年想定 津波浸水の状況(全県)

想定断層	県想定6断層+参考2断層
浸水市町村	12市町村
最高津波水位 (代表地点)	7.3m(新潟市寄居浜) " (佐渡市小木大浦)
浸水面積	15,057ha(20cm以上を表記)
影響開始時間	最短で5分以内